

## 国産い草市場の復興を目指す

### 新築の家に一部屋は畳を！

(株)トーション

代表取締役社長 田中 範久さん

(株)トーションが開発した「茶染め畳表」が、国が認定する「地域産業資源活用事業計画」に選ばれた。

この認定を受けると、商品作り事業への補助金、設備投資減税、中小企業信用保証法の特例、政府系金融機関による低利融資や専門家によるアドバイス等、総合的な支援を受けられる。

さて、「茶染め畳表」とはどんな製品だろうか。田中さんはこう言われる。「い草と緑茶カテキンのダブルパワーを持つ、健康、安心の高機能畳表です。元々、い草には、

抗菌作用、リラックス効果、有害物質除去効果、調湿効果がありますが、梅雨時にカビが入る弱点がありました。これを克服したのが新しい製品です。カテキンによって、カビを抑制するわけです。」

さらに、従来品より、消臭力が二十五%アップしているそう。また変色が少ない特性もある。そして茶染め加工は、耐久性がある。日光堅ろう度が高く、摩擦による変色も少ないのだ。また、い草に付着している泥を三十度のお湯で、洗い流し無塵化している。清浄さがある。



## カビ発育試験結果

財団法人 日本食品分析センター

プラスチックシャーレに検体を入れ、温度28℃、湿度約97%で7日間保存し、カビ発育状態を肉眼で観察した。検体1) 無加工品にはカビが見られたが、検体2) 加工品は確認されなかった。



検体1) 無加工品



検体2) 緑茶で染めた加工品

しかし、こうした機能性は証明されているのだろうか。証明済みだ。

(財)日本食品分析センターのカビ発育試験結果を紹介しよう。プラスチックシャーレに通常の畳と茶染め畳をそれぞれ入れ、カビの発生状態を検査した。温度二十八度、湿度約九十七%の状態で、七日間観察した。無加工品にはカビが発生したが、茶染め加工品には全く確認されなかったのだ。抗菌効果が優れているのも、(財)日本紡績検査協会近畿事業所の検査で実証されている。二万七千個の生菌を付着させたところ、十八時間後には二二〇個になった。実に一〇〇分の一に減少している。消臭効果試験につ



ラグ

いては、太陽化学(株)ニュートリション事業部に依頼。アンモニアを使った検査。それによると、通常の畳は消臭率六十%、カテキン入りは、七十七・六%とアップした。田中さんは、住環境に求められる安心や安全、清潔さという、ニーズを満たすことに着目、八女茶の茶葉を使って、このような製品を開発した。今後さらにファッショニ性を加味して、若い人たちに訴える製品造りを目指している。田中さんは国産のい草市場に危機感を抱いている。たとえ、「筑後地方の場合、三十年前は作付面積二〇〇〇ha近くありましたが、現在では三十haを割っています。い草からアスバラガス、イチゴなどに移行してきています。」

一つの理由に中国産や工業用畳に押されていることがあります。「しかし、これらは、品質が劣ります。中国産は総じて、い草の表皮、芯が弱く、短期間で摩耗してしまします。数年でバーコード状態になることもあります。一方、工業用の畳は、ポリプロピレンなどの化学繊維を使ったもので、当然、浄化作用、吸湿性などはありません。高品質の国産とは違うのです。」

田中さんは、茶染め製品類が、起爆剤となって国産い草市場の復興に寄与できればと考えている。製品の単価が上がり、栽培する農家も増えていくことを願っている。

そう考えるのは、福岡県花菱協同組合理事長の立場だけでなく、「い草が大好き」という気持ちからも来ているそうだ。「い草農家で生まれ、その環境で育ってきました。い草の緑に囲まれた環境はともすがすがしく、美しいです。強い愛着がありますね。」



ユニット タタミ

「以後、五年計画で増産のための設備投資を計画している。染色工場を充実させる。見学に来ていただくことを前提にきれいな工場にしたいという。」

夢は何だろうか。「畳の部屋は心和む、落ち着きを感じるものです。日本の伝統産業である、い草の価値が再認識され、新築の家には、少なくとも一部屋は畳という風になってほしいと思います。また、大川、大木、柳川のい草は世界に類のない優れたものです。まずは地元から復興していけたらと願っています。多くの耕地に草が栽培されている、清らかで風情ある光景をまた見てみたいですね。」